

はじける ころ

vol.22

人権の宝島
生きる力を育むキャリア教育
—かやの幼稚園・萱野小学校・第二中学校の取り組み—……1-2

みのお市民人権フォーラム23rd 第1分科会
～「食といのち」について語ろう～……3-4

エッセイ
となりのオッチャン かわのひでただ……5-6

箕面市人権教育基本方針（改訂版）の策定にあたって……7



げんげの：「げんげ（紫雪草）」とは、れんげ草のことで、「げんげの」は、れんげ草が一面に生い茂る野原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、れんげ草は、緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。

げ ん げ の の ペ え じ

●写真募集！●子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送りください。

みのおから世界へ！ 人権文化の花束を！

箕面市人権教育基本方針（改訂版）の策定にあたって

教育委員会では、昭和44年（1969年）に「箕面市同和教育基本方針」を策定し、「教育は市民の人権意識の高揚、とりわけ部落差別を根絶する人間の形成に欠かせない分野を受け持つものとして重要であり、責任は重大である」との基本的認識のもとに、同和教育を推進してきました。さらに昭和57年（1982年）には「箕面市障害児教育基本方針」を、平成4年（1992年）には「箕面市在日外国人教育の指針（在日韓国・朝鮮人教育からの出発）」を策定し、本市の幼稚園・学校における人権教育は、障害児教育、在日外国人教育、男女平等教育等に広がりをもせるとともに、地域との連携を深めてきました。そして、これらの成果を継承し、総合的に人権教育を推進するため、市民・団体・関係諸機関等からの幅広い意見をもとに「人権の世紀」といわれる21世紀における、本市幼稚園・学校の人権教育を実りあるものとするよう平成12年（2000年）に「箕面市人権教育基本方針」を策定しました。

策定後8年間で、学校・幼稚園・保育所においては、それぞれの実情に応じた人権教育・人権保育が一層推進されるとともに、箕面市人権教育研究協議会等の人権教育関係団体の活動とも連携することにより、総合的な研究・実践が充実してきました。さらに、平成20年度（2008年度）からは人権を基盤にした小中一貫教育にも取り組んでいます。

しかし、人と人とのつながりがより希薄になっている中で、残念ながらさまざまな人権問題が生じており、いのちや人としての誇りの大切さが忘れられているのではないかと思われるようなできごともあり、いまだ一人ひとりの人権が十分に尊重されていない状況があります。

これらの社会状況や教育基本法の改正、さらに文部科学省からの「人権教育の指導上の在り方について」の公表もあり、教育委員会としては、部分改訂にあたり本公表の趣旨もふまえるとともに、当初の策定理念を引き継ぐ改訂版を策定しました。

なお、平成23年（2011年）度には行動計画（実施プラン）の策定も視野に入れた全面改訂を行う予定です。

人権教育推進会議情報誌『はじける ころ』

発行 箕面市人権教育推進会議

箕面市教育委員会

人権教育課 TEL072-724-6921 FAX072-724-6010

e-mail : edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成21年（2009年）3月

人権教育推進会議委員

平沢安政、谷川守保、河野秀忠、小林和幸、安東由紀子、大橋かおり、林喜久子、昌元真己、守婦朋子、小関政子、平沢清美、福永茂、石井順子、澤田敦世、柳井律子、竹綱珠衣、平林和男

「はじけるころ」は教職員・PTA運営委員に配布しています。公共施設においています。

公開ホームページ : <http://www.2.city.minoh.osaka.jp/EDUJINKEN/JINKEN/jinken.html>

生きる力を育むキャリア教育

かやの幼稚園・萱野小学校・第二中学校の取り組み

各学校園所では、子どもの生きる力を育むために様々な取り組みを行っています。

今回は、かやの幼稚園の保育「ぼかぼかタイム」を参観し「人に関わる力」について園の取り組みを取材したことをきっかけに、小学校・中学校とのつながりについて、萱野小学校、第二中学校にも話を聞きました。

第二中学校区では、「キャリア教育」という言葉を、単に職業についての学習だけをさすものではなく、「人間関係形成能力」（様々な人々とコ

12月15日、かやの幼稚園の研究保育を参観しました。かやの幼稚園では、子どもたちの人間関係に焦点をあて、4歳児と5歳児の異年齢交流（ぼかぼかタイム）における、「人に関わる力」を中心に研究をしています。特に、人間関係を形成する力を高めるために、グループで協力したり相談したりするような活動の場面をねらいにそって計画的に作っています。

また、活動を振り返り、子どもと子どもをつなぐ[※]シェアリングを大切にしています。



萱野小学校では、めざす子ども像を、「自己肯定感を持たせることを基礎に、自立できる子どもを育てること」とし、人権総合学習に取り組んでいます。自分が好

きという一人ひとりの自己肯定感は、友だちとの関係、地域や社会とのつながりのなかで培われていきます。人との関わりの中で自分のことを大切な存在だと捉え、周りの人のことを信頼し、取り組みの中で自己有効感を高めていくことが、主体的によりよい社会づくりに参加していく力につながります。

低学年では、自分のことを大切な存在だと実感できたり、人とながることを楽しんだりする活動を通して人権の基礎教育を行います。中学年では、自分の得意を生かしつつ相手を意識した活動を通して、社会とのつながりを考え、6年生では、仕事を肯定的に捉えられるように、仕事で夢をかなえた方との出会いや身近な人のインタビューをしたり、地域に役立つ仕事を考えたりして、学年に応じて活動を組み立てています。

第二中学校のめざす生徒像は、「主体的に自分の位置を築くことのできる生徒」です。自分が将来どのように生きていくかという「生き方」

コミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む」「情報活用能力」（幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方を選択する）」「将来設計能力」（夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する）」「意思決定能力」（自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する）など生きていく上で必要な様々な能力を育てるという観点で保幼小中が連携して取り組んでいます。

についての取り組みをすすめています。将来の生活に必要な学力やコミュニケーション能力はもちろん、自分の生き方についての見通しを持たせ、将来に対する意欲を高めていくため、3年間を通じて「生き方を考える」学習を行っています。1年生では地域学習、2年生では職場体験学習、3年生では平和学習と進路学習というカリキュラムで、毎年生徒に合わせて工夫し実施しています。3年間の学習を通して、遠い将来から近い目の前の進路まで、自らの「生き方を考える」ことによって、「主体的に生活する意欲を持つ」ことにつながるという目的にそって学習をすすめています。

※シェアリング：感想をわかちあうこと



かやの幼稚園を参観して

人権教育推進会議委員 石井順子

4・5歳児の異年齢のかかわりを通して、キャリア教育に視点をあてながらの実践は重要です。近年、子どもたちの人とかかわる力（コミュニケーション力）の低下が言われている中で、自尊感情を育てながら生きる力の基礎を身につけていくことは、人に対する信頼感や愛情・他者への思いやりの気持ちを育むことにつながります。それがかやの幼稚園の取り組みの中によく表れています。また、教師がどのような援助をすればよいのかシェアリングをすることで、子ども同士が共感したり自分の思いを表現したりする体験を、日常的に経験できるようにすることが大切を感じた研究会でした。

人権教育推進会議委員 林 喜久子

1月14日、「キャリア教育について」というテーマで、第二中学校と萱野小学校の先生からお話を聞かせていただき、学校教育の重要性を再認識致しました。第二中学校では、〈将来どのようになんて生きていくのか〉ということを、子どもたちが自分自身で考える力を養うために〈学力・仲間・生活〉を三本柱として掲げていることや三本柱達成のために実践されている取り組みをお聞きました。萱野小学校では、〈子ども同士のつながり〉を基盤にして、基礎学力を養うと共に、子どもが自尊感情を持つようになることをめざす教育をされていることをお聞き致しました。どちらの学校においても、子どもたちが

自分の居場所を自分で探し求める意欲や、社会の中でしっかりと生きていく力を養おうとしておられることがよくわかり、勉強だけではない学校教育の重要性を考え直す、いい機会になりました。

人権教育推進会議委員 安東由紀子

箕面市においては中学校区での幼稚園・保育所、小学校、中学校が連携を図り、子どもたちの「生きる力」の育成をめざしています。第二中学校、萱野小学校の素晴らしい学校教育目標とともに、子どもたちが社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、自立していくことができるよう、その基礎となる人権教育が取り組まれています。学校教育のエ



ネルギー源は、主体となる子どもたちの自尊感情、一人ひとり支える温かな人間関係、そして、家庭、地域の支援に違いありません。

人権教育推進会議委員 小関政子

萱野小学校、第二中学校で取り組まれているキャリア教育の内容について話を伺いました。第二中学校がこれまで実践してきた人権教育そのものであり、自分の生き方を考え進路を考えていく「生き方学習」がキャリア教育だということでした。

萱野小学校でも同じ考え方で実践されており、人権総合学習は生き方が出口であり、将来を見据え、何を大切に生きるかを問うて行く学習であるということでした。第二中学校でも萱野小学校でも、学年に応じて取り組まれている内容を紹介していただき、かやの幼稚園・萱野小学校・第二中学校と学力を含む人権学習がうまく連携できていると思いました。

最終的な子ども達の進路選択は子ども自身でするはず。しかし、その間大人たちは選択しようとする職業にあだこうだと口をはさんで希望を捨てさせてはいないだろうか。身近な大人たちがどんな気持ちで生きているのか、仕事をしているのかを本音で子どもたちに語る機会をもっともってほしいと思いました。

※「キャリア教育」：児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育（平成18年「キャリア教育推進の手引」）児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために（文部科学省発行より）

「食といのち」について語ろう

人権フォーラム「食といのち」の分科会では、稲保育所の保育士・せいなん幼稚園の養護教諭・豊川北小学校の栄養教諭・管理栄養士をめざす大学生がパネラーになり、並河信太郎さん（相愛大学）をコーディネーターとして、会場の参加者とともに、教育の中で子どもたちに「食」への興味や関心をどのように持たせているか交流しました。

他者のいのちをいただいて人間は生きているということを理解することを基盤にして、学校や家庭で食育を進めることは大事なことです。



保育所では、4・5歳児の目の前で魚を三枚におろし、魚には骨や内臓があり、切ったら血が出ることを体験しました。生きている魚をいただいて

ることを子どもたちは目のあたりにし、食べることは命をいただくことであるということ学習する取り組みの紹介でした。

また幼稚園や保育所では、菜園で野菜づくりを行い、収穫した物を料理して、味わう喜びを知らせています。

幼稚園では、市の健康増進課の栄養士とも連携し、親子クッキングをしています。また、旬の野菜を使った料理やおやつ作りもしています。豊川北小学校では食育に関するカリキュラムを作成し、低学年では、生活科で旬の野菜を触ったり、ご飯の炊けるにおいを嗅いだりして、五感で感じることを大切に取り組んでいます。また、高学年では、手作りのお味噌汁を作ったり、オリジナルみそ汁の実習をしています。

当日は、萱野中央人権文化センター（らいとぴあ）で料理を作ったりする等の活動している6年生の子どもたちが、朝からおやつを作ったり参加者に提供してくれました。そして、日頃の活動も紹介してくれました。

大学生からは、管理栄養士の道を選び、どんな栄養のある物でも人に食べてもらわないと意味がないこと等、今大学で学んでいることの話でした。また、大学では自分の興味のある学習で授業に対する姿勢が変わったことも話されま

した。

会場から、高校生になるとファーストフードをよく食べているという意見や、ファーストフードが良い悪いではなく、栄養的な特徴を知り、バランスの良い食事ができるように力を付けることが必要であり、そのためには、学校園所で3つの栄養素の学習をし、赤色の食品「筋肉や骨をつくる」、黄色の食品「力のもと」、緑の食品「体の調子を整える」を学んでいることなどの意見がありました。

また、保育所では、アレルギーのある子どものために材料が変わっても同じ形になるようにおやつを工夫して出したり、だし昆布も捨てないで、細かく切って炊いておにぎりに入れたりしていること。小学校から、子どもたちに給食をおい



第1分科会「食といのち」について語ろう

人権教育推進会議委員 守婦朋子

パネラー、コーディネーター、参加者という異なる立場からのご意見、問題提起があり、「語ろう」というタイトルにふさわしい場であったと思います。「他の動植物のいのち」をいただくことへの感謝は、「食材を使い切る」、「食べ残しを減らす」、「栄養バランスよく適量食べる」ことの基本であると改めて思いました。

「みんないっしょに同じものを」という視点、「同じものを食べることができない子どもたちへの配慮」という視点など、いろいろな角度の意見があることで多様な対応が期待できると思いました。

家庭における食生活の改善というと、テレビのコマーシャルなどの刷り込みもあり、「女性が家族の食の責任者」と捉える人もまだまだ多い現実もあると思います。そんな中、一人ひとりが、子ども時代から自分の食について考える重要性をベースに食についての取り組みをなさっておられることが、とくに印象に残りました。

らいとぴあ21で活動する6年生サークルのみなさんが、早朝より準備してくれた手作りのお菓子を感謝しながら、いただき、その少年たちの姿に、今後、後輩たちにも、周りの大人たちにも、いい影響を与えてくれそうなパワーを感じました。

第1分科会「食といのち」について語ろう

人権教育推進会議委員 小関政子

我が家の台所には、娘が小六の時、中学のお弁当作りにむけて13年前にいただいた「おべんとうの本」があります。箕面市教育研究会給食部会作成です。“食育ゴマ”の絵はないが、区分は赤・黄・緑の中表紙でしており、簡単に作れる料理本です。親の私も活用しました。

箕面市ではずいぶん前から栄養士の先生方を中心に子どもたちの食について取り組んでおられたのだと料理本のことを思い出し、驚きました。

子どもが小さいとき、感覚の中に「おだしの味がおいしい」という意味をすり込めれば、中・高生でファーストフードの虜になっても、いずれ「お出しの味」の食事に戻るだろうということで保育所や小学校では調理員さんといっしょに栄養士の先生はがんばっておられる話を聞くことができました。

まだ農地が残る箕面ならではの豊川北小学校の実践報告があり、この環境は、大切にしていって欲しいと思うと同時にうらやましくも思いました。「ホリディクッキングを楽しむ会」実行委員会があり、福祉会の方々の協力の元、地元でとれた野菜を使っておせち料理を作ったりもされていました。

命をいただいて命を紡いでいく。「豊川北小3分マナー講座」で食べ方や食べ物に対する姿勢を示し、学んでいるという報告があり、この取り組みは「だしの味」の様に、大人になったとき感謝されるだろうと思いました。

しいと言ってもらえるように、一つの削り節からも一番おいしい出し方をしようと調理員さんと工夫をしていること等、「食」に関わって、会場からさまざまな取り組みの紹介がありました。最後に、コーディネーターから給食で友だちと一緒に食べるのがうれしい。調理実習で食べて喜んでくれたのがうれしい。家族で食卓を囲んで食事をすると和むなど、「食」は人と人のつながりをつくる機能がありますが、現実の家庭では、夕食の時間が一人ひとり違ったり、メニューが違うものを食べるなどの問題も起こってきており、「食」を通じてのコミュニケーションのあり方についての話で分科会のまとめになりました。





春のつらつらおひさまの光りが、タ〜ップリたまっている、学校のへいところで、タッチンとチイちゃん、おしゃべりしています……。タッチンが、

「オレの家な、一〇イチャねン。ふたつの家がくっついててな。オレの家と、となりの家やねン。オレんとは、おばあちゃんとお母さんと、オレの三人や。となりの家には、なんちゅうんかな、ヘンなオッチャンが、ひとりで住んでる。そやなあ、まあ、フツのオッチャンやねンけどな、車イスに乗ってな、首をカクカクしよるねン。お母さんに聞くと、オレが生れる前から、住んでるんやデ。」

べつに悪いオッチャンちゃうねンデ。オレの klein まいとときから、かわいがってくれてるし、今は、朝でも、学校から帰ってからでも、お母さんが仕事でなかなか帰ってけえへんから、おばあちゃんは、あんまり行ったらアカンいうけど、オレ、オッチャンとこで遊んでる。

そんでな、聞くのんは、悪いかなあと思うたんやけど、気になるから、オッチャンに聞いてン。

『オッチャン、なんで首カクカクしたり、車イスに乗ったりしてるん。病気かあ。』

って。そしたら、オッチャンな、ゲタゲタ笑いよんねン。おお笑いや。そしてな、

『よお聞いてくれたなあ。そのうちに聞くやろつと思つとつたんや。オッチャンは、病気でもなんでもあらへん。このままでフツーなんや。タッチンが、そのままで、タッチンなと同じや。タッチンも、コハン食べるやろ。ウンコするやろ。水飲むやろ。お風呂にも入るやろ。オッチャンも同じようにしてる。朝も、夜も、タッチンと同じようにくるよ。オッチャンの見るテレビも、時計も同じやから、時間も同じやデ。ひとのいのちは、みんな同じや。けど、タッチンと、オッチャンのちがつとは、オッチャンがお酒を飲むのんと、オッチャンの方がイケメンやいってくらいやなあ。』

ちゅうて、またゲタゲタ笑いよんねン。オレよりも男前やちゅうねン。アホらになって、オレも笑ろた。」

チイちゃんは、なんだかなあと、ポカン顔でタッチンの話を聞くばかりです。

「けっきょくな、オッチャンのいうてること、オレ、わかれへんかってン。わかれへんのんが当たり前やろ。オッチャンは、フツーやろうけど、やっぱりヘンやねんな。それとな、オッチャンは、ひとり暮らしやけど、いろんなひとがオッチャンのところにきて、オレのおばあちゃんやお母さんのやるような、家

な、な、自分のことを、ほかのひとにやってもらうのんで、やっぱりヘンや。そのことも、オッチャンに聞いたんやけど、オッチャンは、ニヤニヤしながら、

『自分にだけへんことを、ひとに手伝ってもらつのは、当たり前のことやデ。でけへんのは、カッコ悪いことやないし、はずかしいことでも、なんでもあらへん。そのかわり、オッチャンも、いつか、どこかで、ひとのことを手伝ってるんや。おたがいさんや。タッチンも氣イついてへんやろうけど、いろんなひとに、手伝ってもらったり、手伝ったりしてるんやないかな。友だちや、先生がそうやろつ。』

って、タバコに火をつけて、うまそうに、プカリ、プカリや。オレ、ますます、わからへん。」

「夜になってな。お母さんが帰ってきたから、おばあちゃんと三人で、ばんゴハンを食べながら、オッチャンのいうてることを話したんや。そしたらな、おばあちゃんが、

『この前にな、家の前でコケて、ケガしたことがあるやろ。そのときに救急車を呼んでくれたんは、となりのオッチャンやったんやデ。それはそうと、今日は、タケノ」をぎょうさんたいたさかい、ちよっとオッチャンにお裾分けしたげよ。どっこいしょ。』

ちゅうて、オッチャンの家にいってもった。お母さんは、オレの話を聞いてるんか、聞いてないんか、ニ「ニ」しながら、

『おとなりどうしやから、手伝ったり、手伝ってもらったり。そうして、みんながつながっているんだろつね。』

っていう。オレ、頭が「コンガラがって、チョーわからん。今年、四年生になったのに、頭、悪いなあ。なあ、チイちゃん。」

チイちゃんは、おひさまの光りのように、ほんのり、つらつらとつなずいて、目をパチクリ、パチクリさせるばかりです……。

みんなではなしあうイベント

- チイちゃんは、どんなこどもかな。
- 「障害」があるのと、ないのでは、何がちがいますか。
- オッチャンは、タッチンがたずねたことの、どこがおかしいと思って、笑ったのかな。
- ヘルパーさんたちは、どんなお仕事をするのでしょうか。
- あなたは、だれかに手伝ってもらったり、手伝ったりしたことがありますか。先生と一緒に（いっしょ）に、話し合いましょう。

